

Alibaba Cloud **云服#器 ECS**

クイックスタート

Document Version20200213

目次

1 概要	1
2 始める	2
2.1 準備.....	2
2.2 手順 1: 設定の選択.....	2
2.3 手順 2: インスタンスの作成.....	3
2.4 手順 3: インスタンスへの接続.....	5
2.5 手順 5: インスタンスのリリース.....	6
2.6 クイックリファレンス.....	6
2.7 Windows インスタンスでのデータディスクの初期化.....	11
2.8 Linux インスタンスでのデータディスクの初期化.....	13

1 概要

ここでは、コンソールを使用したスピーディーなインスタンスの作成、接続およびリリース方法を解説します。

ここでは、**ECS (Elastic Compute Service)** インスタンスを、*ECS* インスタンスまたはインスタンスとします。

このドキュメントは、コンソール操作に対してのみ適用されます。**API** ユーザーの方は、[API overview](#)をご参照ください。

手順

1. [準備](#)を完了
2. [設定の選択](#)
3. [インスタンスの作成](#)
4. [インスタンスに接続](#)
5. データディスクが作成されている場合、**Linux** インスタンスでは[データディスクの初期化およびマウント](#)、**Windows** インスタンスでは[データディスクの初期化](#)を行う必要があります。
6. [インスタンスをリリース](#)

2 始める

2.1 準備

始める前に、ここに記載されている準備を完了させる必要があります。

- [Alibaba Cloud](#) にサインアップします。
- [ご利用のクレジットカードをバインド](#)します。
- 中国本土のリージョンで ECS インスタンスを作成する場合は、[実名登録](#)をします。
- VPC で ECS インスタンスを作成するには、対象となるリージョンで [VPC およびスイッチの作成](#)を行う必要があります。
- セキュリティグループは仮想ファイアウォールで、それぞれのインスタンスは最低 1 つのセキュリティグループに属する必要があります。システムにより、1 つの [デフォルトセキュリティグループ](#)が提供されます。対象となるリージョンで [セキュリティグループの作成](#)ができ、[お使いの業務ニーズを満たすようにセキュリティグループルールの追加](#)もできます。

2.2 手順 1: 設定の選択

Alibaba Cloud は、200 以上のインスタンスタイプを 10 のカテゴリで提供しており、異なるアプリケーションシナリオで[お使いのニーズを満たす](#)ことができます。

この内容は、エントリーレベルのユーザーの方に適しています。推奨する設定は、ECS インスタンスを使い始める際の参考としてのみご利用ください。

タイプ	インスタンスタイプ	クラウドディスク	インターネット帯域幅	シナリオ
エントリーレベル	1 vCPU + 1 GiB メモリー (ecs.xn4.small)	40 GiB Ultra クラウドディスク	1 Mbps	初期段階で、訪問者の数が少ない個人 Web サイトに適しています。
上級	1 vCPU + 2 GiB メモリー (ecs.n4.small)	40 GiB Ultra クラウドディスク	2 Mbps	トラフィック数が中程度の Web サイト、簡単な開発環境およびコードベースも適しています。

タイプ	インスタンスタイプ	クラウドディスク	インターネット帯域幅	シナリオ
一般	2 vCPU + 4 GiB メモリー (ecs.n4.large)	40 GiB Ultra クラウドディスク	2 Mbps	90% のエン트리レベルユーザーのニーズを満たしており、企業 の操作、並列コンピューティング、共有データ操作に適しています。
理想的なタイプ	4 vCPU + 16 GiB メモリー (ecs.sn2ne.xlarge)	40 GiB Ultra クラウドディスク	5 Mbps	大規模および中規模の Web サイト、分散分析、分散コンピューティング、および Web アプリケーションに適しています。

詳しくは、「[xn4 タイプファミリー](#)」、「[n4 タイプファミリー](#)」および「[sn2ne タイプファミリー](#)」をご参照ください。

Alibaba Cloud は、お使いの設定の変更に柔軟で編集可能な方法を提供します。サブスクリプションのユーザーの方には、実際に過度に高いまたは低い設定である場合、[インスタンス設定のアップグレードまたはダウングレード](#)を行うことができます。

インスタンスタイプについて詳しくは、[#unique_16](#)をご参照ください

Web ホスティングについて詳しくは、「[Web アプリケーションホスティング](#)」をご参照ください。

設定スキームの確認後、ECS インスタンスの作成を開始できます。

2.3 手順 2: インスタンスの作成

ここでは、例としてエン트리レベルインスタンスタイプを取り上げ、コンソールを利用したスピーディーなインスタンスの作成方法を紹介します。詳しくは、「[インスタンスの作成](#)」をご参照ください。API を使用したインスタンスの作成は、[RunInstances](#)をご参照ください。

1. [ECS コンソール](#)にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウから、[インスタンス] をクリックします。

3. インスタンスページで、[インスタンスの作成] をクリックし、カスタマイズ購入ページに移動します。
4. 基本設定を終了するには、以下の手順に従います。
 - a) [課金方法] を選択します。たとえば、[従量課金] を選択します。
 - b) "中国 (杭州)" などのリージョンを選択します。ゾーンを選択、またはデフォルトとしたランダムなゾーンの割り当てを許可します。



注:

インスタンスの作成後、リージョンおよびゾーンを変更できません。

- c) インスタンスタイプを選択し、インスタンス数を指定します。
有効な#unique_16は、選択されたリージョンにより決定されます。この例では、[すべての世代] > [x86 アーキテクチャ] > [エントリーレベル (共有)] > [コンパクトタイプ xn4] を選択します。
 - d) イメージを選択します。この例では、パブリックイメージを選択します。
 - e) ストレージスペースを選択します。この例では、システムディスクのみ使用され、デフォルトである **40 GiB Ultra** クラウドディスクが選択されます。
5. [次へ: ネットワーク] をクリックし、ネットワークおよびセキュリティグループ設定を終了させます。
 - a) ネットワークタイプとして **VPC** を選択します。本ページの例では、デフォルトの **VPC** および **VSwitch** を選択します。
 - b) ネットワーク課金方法を設定します。
この例では、[パブリック IP の割り当て] および [トラフィックごとの支払い] を選択します。
 - c) セキュリティグループを選択します。セキュリティグループを作成しなかった場合、デフォルトのセキュリティグループが使用できます。
 - d) **ENI (Elastic Network Interface)** を追加します。選択したインスタンスタイプが **ENI** をサポートしていない場合、この手順をスキップします。
 6. [次へ: システム設定] をクリックします。
必要に応じた設定を行います。[ログイン認証情報] および [インスタンス名] の設定を推奨します。この例では、[パスワード] を選択し、インスタンス名を "**ecs-01**" に設定します。
 7. [次へ: グループ化] をクリックします。必要に応じて、オプションを設定します。複数のインスタンスの場合、管理を簡単に行うためにラベルを追加することを推奨します。

8. [次へ: プレビュー] をクリックします。選択した設定を確認します。[編集] アイコンをクリックして前に戻り、設定の変更もできます。
9. [サービス規約] を読み、確認した後、[インスタンスの作成] をクリックします。

[コンソール] をクリックし、ECS コンソールに戻ります。一般的に、インスタンスの作成の完了まで 1 分から 5 分かかります。[最新の情報に更新] ボタンをクリックし、インスタンスが作成されたかどうか確認します。新しく作成された ECS インスタンスが "Running" ステータスと表示された場合、インスタンスの作成に成功しています。

2.4 手順 3: インスタンスへの接続

ECS インスタンスの作成後、さまざまな方法でインスタンスに接続できます。ここでは、ECS コンソールの管理ターミナルを利用してお使いの ECS インスタンスの接続方法および管理方法を紹介します。詳しくは、「[インスタンスへの接続](#)」をご参照ください。

手順

1. ECS コンソールにログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウから [インスタンス] をクリックします。
3. リージョンを選択します。この例では、"中国 (杭州)" が選択されています。
4. インスタンスリストで、作成された "ecs-01" インスタンスを検索します。"操作" 列で、[接続] をクリックします。
5. ポップアップ表示された [VNC パスワード] ダイアログボックスで、パスワードをコピーし、[閉じる] をクリックします。



注:

VNC パスワードは一度のみ表示されます。後ほど管理ターミナルへの接続に使用するため、パスワードは覚えておいてください。

6. ポップアップ表示された [VNC パスワードの入力] ダイアログボックスで、パスワードを貼り付けた後、[OK] をクリックします。
7. ECS インスタンスにログインします。オペレーティングシステムに応じて、以下の操作を実行します。
 - ・ **Linux** インスタンスでは、ユーザー名 "root"、および [インスタンスの作成時](#) に設定したインスタンスへのログインパスワードを入力します。
 - ・ **Windows** インスタンスでは、左上隅の [管理ターミナル] インターフェイスで、[リモート呼び出しの送信] > [CTRL + ALT + DELETE] を押し ("+" はキーを同時に押すことを意味

します)、ログインインターフェイスに移動します。 [インスタンスの作成時](#)に設定したパスワードを入力し、ログインします。

お使いのインスタンスへのログインパスワードを忘れた場合は、 [インスタンスパスワードのリセット](#)を行います。

2.5 手順 5: インスタンスのリリース

使わなくなったインスタンスをリリースすることで料金が発生しなくなります。

VPC 接続されたインスタンスの場合、停止済みインスタンス (VPC 接続済み) へ課金しない機能を有効にしていない場合、インスタンスの停止後も料金が発生します。クラシックネットワーク上のインスタンスは、常にインスタンスの停止後も料金は発生します。必要のないインスタンスは、リリースすることができます。詳しくは、「[インスタンスの停止](#)」および「[インスタンスのリリース](#)」をご参照ください。

ここでは、コンソール上での従量課金インスタンスのリリース方法を解説します。サブスクリプションインスタンスは、課金サイクルの終了後、自動的にリリースされます。



注:

インスタンス上にデータがある場合、リリース前に[スナップショットを作成](#)しバックアップすることを推奨します。

手順

1. [ECS コンソール](#)にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウから [インスタンス] をクリックします。
3. リージョンを選択します。このページの例では、"中国 (杭州)" を選択します。
4. インスタンスリストで、リリースする **ecs-01** インスタンスを検索します。"操作"列から、[詳細] > [インスタンスステータス] > [リリース] をクリックします。
5. [今すぐリリース] を選択し、[次へ] をクリックします。
6. インスタンスをリリースすることを確認し、[OK] をクリックします。

リリースされたインスタンスは、インスタンスページに表示されることはありません。

2.6 クイックリファレンス

この内容は、Alibaba Cloud の ECS インスタンスとリソースの共通機能を紹介するクイックリファレンスガイドです。インスタンスへの接続、ディスクの拡張、設定のアップグレードとダウ

ングレード、およびスナップショットやイメージの使用などのシナリオのソリューションを提供します。

操作説明と制限

ECS インスタンスの適切な動作を保証するために、インスタンスを使用する前に [ECS 操作説明](#) と「[制限事項](#)」をご参照ください。

ECS インスタンスの作成と管理

基本操作

1. [ECS インスタンスを作成します。](#)
2. [ECS インスタンスに接続します。](#) ECS インスタンスを実行するオペレーティングシステム、および実際のシナリオに応じて、下記の方法のいずれかを使用します。
 - ・ いずれのタイプのオペレーティングシステムについても、トラブルシューティングとメンテナンスを含むシナリオの場合は、[管理ターミナル](#)を使用します。
 - ・ **Linux** または **Unix** 互換 OS の場合は、[パスワードを使用した Linux インスタンスへの接続](#)、または [SSH キーペアを使用した Linux インスタンスへの接続](#)をすることができます。
 - ・ **Windows OS** の場合は、[Windows インスタンスへの接続](#)をすることができます。
3. [ECS インスタンスを停止します。](#)
4. [インスタンスをリリースします。](#)

ECS インスタンスを使用するには、次の手順に従います。

設定の変更

インスタンスタイプ、IP アドレス、およびネットワーク帯域幅を変更できます。

- ・ [サブスクリプションインスタンス：サブスクリプションインスタンスの設定のアップグレード、または設定のダウングレードのための更新](#)
- ・ [従量課金インスタンスの設定の変更](#)
- ・ [パブリック IP アドレスの変更](#)
- ・ [パブリック IP アドレスの EIP アドレスへの変換](#)

もし現在のオペレーティングシステムがビジネスニーズを満たしていない場合、[オペレーティングシステムの変更](#)が可能です。

課金

[サブスクリプションから従量課金に切り替える](#)ことができます。

サブスクリプションインスタンスを更新するには、次のいずれかの方法を選択します。

- ・ [手動更新](#)
- ・ [自動更新](#)

ECS インスタンスの洗練された管理と制御

次の機能を使用して、ECS インスタンスの管理と制御を改善することができます。

- ・ [ユーザーデータ](#)
- ・ [インスタンス ID を含むメタデータ](#)
- ・ [インスタンス RAM ロール](#)

クラウドディスクの作成と管理

基本操作

クラウドディスクをデータディスクとして使用するには、次の手順に従います。

1. [クラウドディスクを作成](#)します。
2. [クラウドディスクをアタッチ](#)します。
3. [\(Linux\) データディスクをフォーマットしてマウント](#)します。 [\(Windows\) データディスクをフォーマット](#)します。
4. データのバックアップのために [スナップショットを作成](#)します。
5. [クラウドディスクをデタッチ](#)します。
6. [クラウドディスクをリリース](#)します。

設定の変更

システムディスクまたはデータディスクの容量を調整するには、[システムディスクのサイズを増やす](#)か、またはデータディスクのサイズを変更します。データディスクのサイズ変更に関する詳細は、[Linux_データディスクのサイズ変更](#)、および[Windows_データディスクのサイズ変更](#)をご参照ください。

クラウドディスク上のデータ管理

クラウドディスク上でデータエラーが発生した場合は、スナップショットを使用して[クラウドディスクをロールバック](#)し、データを復元することができます。

クラウドディスクを作成後に初期状態に復元する場合は、[クラウドディスクの再初期化](#)をすることができます。

既存のクラウドディスクのデータを新しい空のクラウドディスクにコピーする場合は、[スナップショットからクラウドディスクを作成](#)することができます。

スナップショットの作成と管理

基本操作

スナップショットを使用するには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法でスナップショットを作成します。
 - ・ [スナップショットを作成](#)します。
 - ・ [自動スナップショットポリシーの作成と削除](#)、そして[自動スナップショットポリシーのディスクへの適用](#)を行い、自動スナップショット作成を有効にします。
2. [スナップショットチェーンを表示](#)します。
3. 料金を削減し、ディスクの空き容量を増やすために、[不要なスナップショットを削除](#)します。

スナップショットの使用

データをコピーまたはバックアップするには、スナップショットを使用して、[スナップショットからクラウドディスクの作成](#)、または[クラウドディスクのロールバック](#)ができます。

デプロイメントの簡素化のため、システムディスクのスナップショットを使用して、[スナップショットを使用したカスタムイメージの作成](#)、または[カスタムイメージからインスタンスの作成](#)をすることができます。

カスタムイメージの作成と管理

ECS コンソールで操作できるのはカスタムイメージだけです。

次の方法でカスタムイメージを実行できます。

- ・ [スナップショットを使ったカスタムイメージの作成](#)
- ・ [インスタンスを使ったカスタムイメージの作成](#)
- ・ [パッカーを使ったカスタムイメージの作成](#)
- ・ [異なるリージョン間のカスタムイメージのコピー](#)
- ・ [異なるアカウント間のカスタムイメージの共有](#)
- ・ [カスタムイメージのインポート](#)
- ・ [オンプレミスサーバーに格納されているカスタムイメージの、パッカーを使用した作成およびインポート](#)

環境をバックアップするための[カスタムイメージのエクスポート](#)、および不要なカスタムイメージの削除をすることができます。

セキュリティグループの作成と管理

基本操作

セキュリティグループを使用するには、次の手順に従います。

1. セキュリティグループの作成
2. セキュリティグループルールの追加
3. セキュリティグループの追加または削除
4. セキュリティグループルールの削除
5. セキュリティグループの削除

セキュリティグループとルールの管理

ビジネスデプロイメントを簡素化するために、リージョンやネットワークタイプを越えてセキュリティグループの複製が可能です。

新しいセキュリティグループルールがオンラインビジネスアプリケーションを損なう場合は、完全にまたは部分的にセキュリティグループルールを復元することができます。

SSH キーペアの作成と管理

SSH キーペアを使用するには、次の手順に従います。

1. SSH キーペアの作成、または SSH キーペアのインポート
2. SSH キーペアのバインド、またはLinux インスタンスの作成後か新しいインスタンスの作成後のSSH キーペアのバインド
3. SSH キーペアを使用したLinux インスタンスへの接続
4. SSH キーペアのバインドの解除
5. SSH キーペアの削除

ENI の作成と管理

ENI を使用するには、次の手順に従います。

1. ENI の作成
2. ENI のインスタンスへの添付、またはインスタンスの作成時のENIの添付
3. 任意 ENI の設定
4. ENI のインスタンスからのデタッチ
5. ENI の削除

タグの使用

リソースの編成を容易にするために、タグをグループ リソースに適用できます。タグを使用するには、次の手順に従います。

1. タグのリソースへの追加とバインド
2. タグによるリソースのフィルタ

3. タグの削除

2.7 Windows インスタンスでのデータディスクの初期化

Windows インスタンス作成時、データディスクを選択した場合、使用にあたってデータディスクのパーティショニングと初期化が必要です。

ここでは、新しいデータディスクを使用した **1** つのパーティションを持つデータディスクの作成方法および、ファイルシステムのマウント方法を解説します。ビジネスニーズに応じて、複数のパーティションも設定できます。この内容は、**2 TiB** 以下のデータディスクにのみ適用できます。

2 TiB を超えるデータディスクの場合は、「[2 TiB を超えるデータディスクのパーティショニングおよび初期化](#)」をご参照ください。



警告：

- ・ ディスクパーティショニングおよび初期化はリスクの高い操作です。操作の際はご注意ください。ここでは、空のデータディスクの扱い方を説明します。データディスクにデータがある場合、データ損失を避けるために、データディスクのスナップショットの作成を行います。
- ・ **ECS** インスタンスでは、データディスクのパーティショニングのみサポートしており、システムディスクのパーティショニングはサポートしていません。サードパーティツールを使用して強制的にシステムディスクのパーティショニングをする場合、システムのクラッシュやデータ損失などの予期せぬリスクが発生する可能性があります。

前提条件

個別に購入したデータディスクでは、パーティショニングおよび初期化の前に、[インスタンスへデータディスクを接続する](#)必要があります。

インスタンスとともに購入したデータディスクは、インスタンスへ接続せずにパーティショニングおよび初期化が可能です。

手順

この例では、**64** ビットの **Windows Server 2012 R2** で **20 GiB** のデータディスクのパーティショニングおよび初期化方法を解説します。

1. [インスタンスへ接続](#)します。

2. **Windows Server** デスクトップで、[スタート] ボタンを右クリックし、[ディスク管理] を選択します。

オフラインとなっている未初期化のデータディスク (**Disk 2**) が表示されます。

3. **Disk 2** 周辺の空白領域を右クリックし、コンテキストメニューで **[オンライン]** を選択します。

オンラインになった後、**Disk 2** のステータスは **"Not Initialized"** と表示されます。

4. **Disk 2** 周辺の空白領域を右クリックし、コンテキストメニューで **[ディスクの初期化]** をクリックします。

5. **[ディスクの初期化]** ダイアログボックスで、**[Disk 2]** およびパーティショニング方法を選択します。

- ・ **MBR** は最も一般的なパーティショニング方法です。しかし、この方法は **2 TB** より大きいデータディスクをサポートしておらず、最大 **4** つのプライマリパーティションに分割できます。データディスクを **5** つ以上のパーティションに分割したい場合、拡張パーティションとしてプライマリパーティションを設定し、その中に論理パーティションを作成する必要があります。
- ・ **GPT** は新しいパーティショニング方法で、以前のバージョンの **Windows** では認識されません。 **GPT** パーティショニングされたデータディスクのサイズは、オペレーティングシステムおよびファイルシステムにより決定されます。 **Windows** オペレーティングシステムでは、 **GPT** は最大 **128** 個のプライマリパーティションをサポートしています。

この例では、**MBR** パーティショニング方法を選択し、**[OK]** をクリックします。

6. **[ディスク管理]** ウィンドウで、**Disk 2** の **[未割り当て]** エリアで右クリックし、**[新しいシンプルボリューム]** を選択します。

7. **[新しいシンプルボリューム]** ウィザードで、以下の手順に従います。

a. **[次へ]** をクリックします。

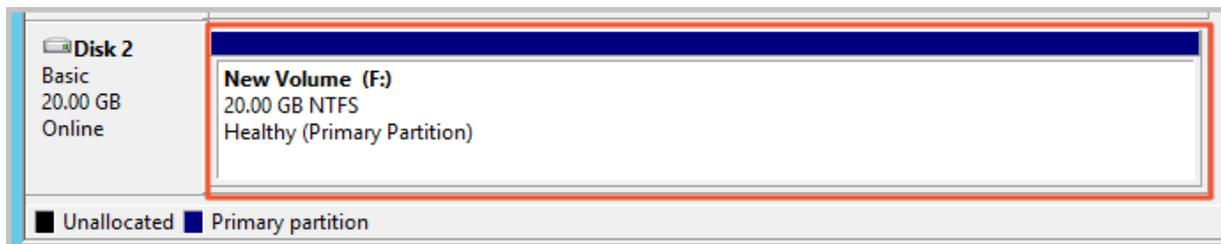
b. **ボリュームサイズの指定:** 作成するシンプルボリュームのサイズを指定します。 **1** つのプライマリパーティションのみが必要な場合、デフォルト値を使用し、**[次へ]** をクリックします。

c. **ドライブ文字またはドライブパスの割り当て:** ドライブ文字を選択します (この例では、**"F"**)。 **[次へ]** をクリックします。

d. **パーティションの初期化:** 初期化設定 (ファイルシステム、単位サイズの割り当ておよびボリュームラベル) を選択し、**[クイック初期化]** および **[ファイルとフォルダーの圧縮]** を有効化するかどうか確認します。デフォルト値を使用し、**[次へ]** をクリックします。

e. **新しいシンプルボリュームを作成します。** ウィザードの下に情報が表示されたとき、新しいシンプルボリュームが作成されます。 **[完了]** をクリックし、**[新しいシンプルボリュームウィザード]** を閉じます。

パーティションの初期化が完了すると、[ディスク管理] の **Disk 2** のステータスは、以下の図のように示されます。



[この PC] で、[新しいボリューム (F:)] という名称の新しいドライブが参照できます。これで、データディスクの使用準備は完了です。

2.8 Linux インスタンスでのデータディスクの初期化

インスタンス作成時、データディスクを選択した場合、使用前にデータディスクの初期化およびファイルシステムのマウントが必要です。ここでは、新しいデータディスクを使用した 1 つのパーティションを持つデータディスクの作成方法および、ファイルシステムのマウント方法を解説します。ビジネスニーズに応じて、複数のパーティションも設定できます。

この内容は、fdisk コマンドを利用した **2 TiB** 以下のデータディスクのパーティショニングにのみ適用できます。**2 TiB** を超えるデータディスクの場合は、[「2 TiB を超えるデータディスクのパーティショニングおよび初期化」](#)をご参照ください。パーティショニングには、ビルトインシステムツールの使用を推奨します。



警告：

- ディスクパーティショニングおよび初期化はリスクの高い操作ですので、慎重に進めてください。ここでは、空のデータディスクの扱い方を説明します。データディスクにデータがある場合、データ損失を避けるために、[データディスクのスナップショットの作成](#)を行います。
- ECS インスタンスでは、データディスクのパーティショニングのみサポートしており、システムディスクのパーティショニングはサポートしていません。サードパーティツールを使用して強制的にシステムディスクのパーティショニングをする場合、システムのクラッシュやデータ損失などの予期せぬリスクが発生する可能性があります。

前提条件

インスタンスとは別に購入したデータディスクでは、パーティショニングおよび初期化の前に、ECS コンソールで[インスタンスへデータディスクを接続](#)する必要があります。

インスタンスとともに購入したデータディスクでは、インスタンスへデータディスクを接続する必要がありません。

インスタンスにマウントされるデータディスクのデバイス名を確認する必要があります。[ESC コンソール] > [ブロックストレージ] > [ディスク] > [(ディスク ID に関する) 詳細] > [属性の変更] へ移動し、データディスクのデバイス名を検索します。デフォルトでは、システムによりデバイス名が割り当てられ、`/dev/xvdb` から始まり、`/dev/xvdb` から `/dev/xvdz` の順に設定されます。

手順

本ページの例では、新しい **20 GiB** のデータディスク (デバイス名 `/dev/vdb`) として **1** つのパーティションのデータディスクが作成され、**ext3** ファイルシステムがマウントされます。**CentOS 6.8** オペレーティングシステムの **I/O** が最適化されたインスタンスが使用されます。

1. [インスタンスへ接続します](#)。
2. `fdisk -l` コマンドを実行し、データディスクを表示します。コマンドの実行後、`/dev/vdb` が見つからない場合は、お使いのインスタンスにデータディスクがないことを示しています。そのため、初期化の必要はなく、この内容の残りの手順をスキップできます。
 - ・ お使いのデータディスクが `dev/xvd?` の場合、非 **I/O** 最適化インスタンスが使用されています。
 - ・ ? は "a" から "z" のいずれかの文字です。
3. **1** つのパーティションのデータディスクを作成し、次のコマンドを順番に実行します。
 - a. `fdisk /dev/vdb` を実行し、データディスクのパーティショニングを行います。
 - b. `n` を入力し、**[Enter]** キーを押し、新しいパーティションを作成します。
 - c. `p` を入力し、**[Enter]** キーを押し、プライマリパーティションを選択します。この例では、**1** つのパーティションのデータディスクを作成しているため、**1** つのプライマリパーティションの作成で十分となります。



注:

5 つ以上パーティションを作成する場合は、**e** を選択し、少なくとも **1** つの拡張パーティションを作成します。

- d. パーティション番号を入力し、**[Enter]** キーを押します。この例では、**1** が入力されます。
- e. 最初に利用可能なセクター番号を入力します。**[Enter]** キーを押すと、デフォルト値 **"1"** が使用されます。
- f. 最後のセクターの番号を入力します。この例では、**1** つのパーティションのみが作成されるため、**[Enter]** キーを押し、デフォルト値を使用します。
- g. **wq** を入力し、**[Enter]** キーを押します。

```
[root@iXXXXXXXX ~]# fdisk /dev/vdb
Device contains neither a valid DOS partition table, nor Sun, SGI
or OSF disklabel
Building a new DOS disklabel with disk identifier 0x5f46a8a2.
Changes will remain in memory only, until you decide to write them
.
After that, of course, the previous content won't be recoverable.
Warning: invalid flag 0x0000 of partition table 4 will be
corrected by w(rite)
WARNING: DOS-compatible mode is deprecated. It's strongly
recommended to
switch off the mode (command 'c') and change display units to
sectors (command 'u').
Command (m for help): n
Command action
e extended
p primary partition (1-4)
p
Partition number (1-4): 1
First cylinder (1-41610, default 1): 1
Last cylinder, +cylinders or +size{K,M,G} (1-41610, default 41610
):
Using default value 41610
Command (m for help): wq
The partition table has been altered!
Calling ioctl() to re-read partition table.
Syncing disks.
```

- 4. **fdisk -l** コマンドを実行し、新しいパーティションを表示します。以下のような情報が表示された場合、新しいパーティション **"/dev/vdb1"** が作成されています。

```
[root@iXXXXXXXX ~]# fdisk -l
Disk /dev/vda: 42.9 GB, 42949672960 bytes
255 heads, 63 sectors/track, 5221 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x00053156
Device Boot Start End Blocks Id System
/dev/vda1 * 1 5222 41942016 83 Linux
Disk /dev/vdb: 21.5 GB, 21474836480 bytes
16 heads, 63 sectors/track, 41610 cylinders
Units = cylinders of 1008 * 512 = 516096 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x5f46a8a2
```

```
Device Boot Start End Blocks Id System
/dev/vdb1 1 41610 20971408+ 83 Linux
```

5. `mkfs.ext3 /dev/vdb1` コマンドを実行し、新しいパーティションにファイルシステムを作成します。

- ・ この例では、**ext3** ファイルシステムが作成されます。ニーズに応じて他のファイルシステムの作成も選択できます。たとえば、**Linux**、**Windows** および **Mac** 間でファイルを共有する場合、`mkfs.vfat` を使用し、**VFAT** ファイルシステムを作成できます。
- ・ ファイルシステムの作成に必要な時間は、データディスクのサイズによります。

```
[root@iXXXXXXXX ~]# mkfs.ext3 /dev/vdb1
mke2fs 1.41.12 (17-May-2010)
Filesystem label=
OS type: Linux
Block size=4096 (log=2)
Fragment size=4096 (log=2)
Stride=0 blocks, Stripe width=0 blocks
1310720 inodes, 5242852 blocks
262142 blocks (5.00%) reserved for the super user
First data block=0
Maximum filesystem blocks=4294967296
160 block groups
32768 blocks per group, 32768 fragments per group
8192 inodes per group
Superblock backups stored on blocks:
32768, 98304, 163840, 229376, 294912, 819200, 884736, 1605632,
2654208,
4096000
Writing inode tables: done
Creating journal (32768 blocks): done
Writing superblocks and filesystem accounting information: done
This filesystem will be automatically checked every 37 mounts or
180 days, whichever comes first. Use tune2fs -c or -i to override.
```

6. (推奨) `cp /etc/fstab /etc/fstab.bak` コマンドを実行し、データディスクをバックアップします。

7. `echo /dev/vdb1 /mnt ext3 defaults 0 0 >> /etc/fstab` コマンドを実行し、新しいパーティション情報を `/etc/fstab` に書き込みます。



注:

buntu 12.04 は "**barrier**" をサポートしてないため、このファイルシステムの正しいコマンドは `echo '/dev/vdb1 /mnt ext3 barrier=0 0 0' >> /etc/fstab` となります。

たとえば、**Web** ページを別に保存するなど、別にデータディスクをフォルダーにマウントする必要がある場合、`/mnt` を希望するマウントポイントに置き換えます。

8. `/etc/fstab` にある新しいパーティションの情報の表示には、`cat /etc/fstab` コマンドを実行します。

```
[root@iXXXXXXXX ~]# cat /etc/fstab
```

```
#
# /etc/fstab
# Created by anaconda on Thu Feb 23 07:28:22 2017
#
# Accessible filesystems, by reference, are maintained under '/dev/
disk'
# See man pages fstab(5), findfs(8), mount(8) and/or blkid(8) for
more info
#
UUID=3d083579-f5d9-4df5-9347-8d27925805d4 / ext4 defaults 1 1
tmpfs /dev/shm tmpfs defaults 0 0
devpts /dev/pts devpts gid=5,mode=620 0 0
sysfs /sys sysfs defaults 0 0
proc /proc proc defaults 0 0
/dev/vdb1 /mnt ext3 defaults 0 0
```

9. ファイルシステムのマウントには、`mount /dev/vdb1 /mnt` を実行します。

10. ディスクスペースおよびディスク使用量の参照には、`df -h` コマンドを実行します。新しいファイルシステムの情報が、コマンドの実行結果として表示された場合、マウント操作は成功しており、新しいファイルシステムを使用できます。

マウント後、新しいファイルシステムを直接使用でき、インスタンスを再起動する必要はありません。

```
[root@iXXXXXXX ~]# mount /dev/vdb1 /mnt
[root@iXXXXXXX ~]# df -h
Filesystem Size Used Avail Use% Mounted on
/dev/vda1 40G 6.6G 31G 18% /
tmpfs 499M 0 499M 0% /dev/shm
/dev/vdb1 20G 173M 19G 1% /mnt
```